

弘前城かわら版

Vol.7 [令和5年1月5日]

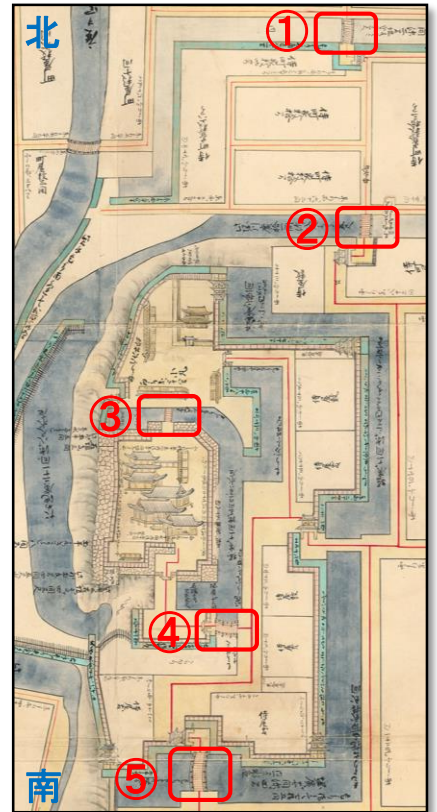
史跡 弘前城跡では、史跡内にある8橋の上部木材の更新工事を進めています。今号では、春陽橋（しゅんようばし）と下乗橋（げじょうばし）の歴史について紹介します。

【弘前城内の橋】

弘前城跡には現在、8箇所の木橋〔ただし橋脚はコンクリート〕がありますが、これらすべてが江戸時代から存在した訳ではないことを〔VOL.4〕で紹介しました。

正保2年<1645>「津軽弘前城之絵図」【右図：全体のうちの一部分】は、弘前城を描いた最古の絵図とされ、①亀甲橋（かめのこうばし）、②賀田橋（よしたばし）、③鷹丘橋（たかおかばし）、④下乗橋（げじょうばし）、⑤杉の大橋（すぎのおおはし）の5橋が描かれており、現在西濠にかかっている春陽橋は、この時点では存在していません。

【右図：正保2年 津軽弘前城之絵図〔部分〕】
(弘前市立博物館所蔵)



1.春陽橋（しゅんようばし）

創架：昭和元年<1926>
改修：令和5年<2023>



春陽橋は、西濠にかかる橋です。

昭和元年に公園利用者の利便性向上を目的として新設され、その後昭和30年・平成8年・平成17年に修理されました。

昭和33年<1958>には親柱に擬宝珠（ぎぼし）、欄干に着色があることから【右写真】、遅くとも昭和30年の修理で現在の形になったと考えられます。



【昭和33年<1958>水害時の春陽橋】

2.下乗橋（げじょうばし）

創架：江戸時代初期<約380~400年前>

改修：平成17年<2005>

下乗橋は二の丸と本丸を結ぶ、内濠にかか
る橋です。

江戸時代、橋の二の丸側には下馬札があ
り、藩士は馬から下りて渡るよう定められ
ていたことが橋名の由来とされます。

正保2年「津軽弘前城之絵図」に描かれる
5橋のうちの1橋です。

弘前市立博物館に、かつての下乗橋の一
部とされる鋳物の擬宝珠〔直径35cm・高さ
76cm〕が収蔵されており【写真1】、「慶
長十八年二月吉日 安政六年二月吉 再鋳
之」の銘があります。

慶長18年<1613>は築城の2年後であり、
その頃の形を踏襲して、幕末の安政6年
<1859>に擬宝珠を作り直したのです。下乗
橋には、築城間もない頃には既に擬宝珠が
あったと言えます。

明治時代初期に撮影されたと思われる
【写真2】には、橋の本丸側にある武者屯御
門（むしゃだまりごもん）や本丸御殿とと
もに、欄干に擬宝珠のある白木の下乗橋が
写っています。この状態は、本丸御殿が取
り壊された明治17年<1884>以降も続きました
【写真3】。

明治30年<1897>、本丸東面石垣の崩落に
伴い天守が曳家されますが、その後に撮影
された【写真4】には、親柱を白木の角材と
し、欄干に×形の筋違い（すじかい）を施
す下乗橋が写っています。

下乗橋が再び擬宝珠の橋になるのは、現
在の擬宝珠に「大正三年十月鋳造」銘があ
ることから、大正3年<1914>と推測されま
す。

また、大正4年10月14日付「弘前新聞」
には、下乗橋を朱に塗替え中と記載されて
います。私たちになじみ深い「朱塗で擬宝
珠の下乗橋」は、大正時代に誕生したのだ
です。



【平成26年<2014>の下乗橋】



【写真1】弘前市立博物館所蔵 擬宝珠



【写真2】明治時代初期の下乗橋



【写真3】明治20年代の下乗橋

※ジョージアナ・ポーカス〔明治20年代来日〕の著作所収



【写真4】明治35年<1902>頃の下乗橋

※明治35年発行『仁山智水帖』に掲載

《写真引用元》

【写真2】青森県史デジタルアーカイブシステム
絵はがき・写真類データベース 弘前女学校教員
所蔵写真 クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示
4.0国際(CC BY 4.0) ※元データをトリミング加工

【写真3】GEORGIANA BAUCUS1897『IN
JOURNEYINGS OFT』

【写真4】光村寫真部1902『仁山智水帖』

【発行】弘前市 都市整備部 公園緑地課 弘前城整備活用推進室

〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地

電話 0172-33-8739

FAX 0172-33-8799

E-mail: kouen@city.hirosaki.lg.jp